

平成28年度 第7回講演会 記録

日 時	平成28年7月9日（土） 13:00～15:00
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	豊岡市長 中貝 宗治先生
演 題	コウノトリの里づくりが拓く未来
備 考	参加者数 167名（会員154名、非会員13名） 記録 藤原 雄平

日本の自然界で、一度は絶滅したコウノトリの野生復帰を基軸にして、人口規模は小さくても、世界の人々に尊敬され、尊重されるまち、“小さな世界都市”を目指して活動されている現役の豊岡市長 中貝講師が、コウノトリ野生復帰に至るまでの苦労話や、豊岡市の今後の展望など、時には胸の熱くなる様な感動的なお話を多くの映像を交え熱弁された。以下その要旨。



1. 豊岡市の紹介

- ①豊岡は 2005 年に 1 市 5 町が合併、中心部を円山川が流れる、面積 700 平方 km、人口 82 千人の市である。2012 年、7 階建新市庁舎の建設の際には 3 階建の旧市庁舎を 25m スライドさせて保存に努めた。自然環境と文化環境の保存・再生・創造が豊岡の町づくりの基本構想となっている。
- ②城崎は温泉で（最近では外人客が急増）、出石は蕎麦や古い町並みで、竹野はワクワクビーチや焼杉板張り家屋などでお客を集め、豊岡は特産のコリヤナギを使った柳行李の制作から、今や日本一のカバンの産地となるなど、各々の地域が特色を持って相互に補いあえる町づくりが進んでいる。

右写真は 25m スライド移設した旧庁舎



2. コウノトリの野生復帰から“小さな世界都市”へ

- ①コウノトリはかつて日本の各地で見られたが、農薬の普及や河川改修によりエサの生物が減少し絶滅した。
- ②1965 年、豊岡でコウノトリの人工飼育が開始されたが、24 年間、1 羽のヒナもかえすことが出来ず、苦難が続いた。1985 年、シベリアから移入した 6 羽から、1989 年に待望のヒナが誕生し、その後は増殖活動が順調に進んでいる。2005 年、ついに最初の放鳥が行われた。現在、飼育中が 95 羽、野生が 89 羽の計 184 羽のコウノトリが豊岡にいる。
- ③コウノトリの野生復帰には 3 つの狙いがあった。まず、コウノトリとの約束（飼育→野生化）を果たすこと、世界的にも減少しているコウノトリを、豊岡で復帰させることで世界的な貢献を果たすこと、そして、コウノトリも住める豊かな環境を創造することである。この目的に沿って、無農薬、減薬農法の普及、中干し延期水田の拡大、戸島湿地公園などの湿地の作成などを行政が中心となって推進した。2012 年には、戸島湿地公園がラムサール条約に登録された。
- ④コウノトリを育む優しい農法で収穫されたブランド米「コウノトリの舞」の販売や、太陽電池メーカー、新生産方式の木炭工場の誘致など、環境経済戦略を推進しており、コウノトリの住める環境の中で、子供たちが喜んで田に帰るような、市民が豊かな“小さな世界都市”の実現に向けて、“夢はでっかく、根は深く”、“願うこと 願い続けること 投げださないこと”の精神で頑張っていく。



以上

（注：上掲写真はいずれも講演の中で使用された写真ではありません。）